関西大学新報

発行所
吹田市千里山
関西大学二部新聞部
編集人 発行人 印刷人　白井　幸雄

学びつゝ働く学徒に寄する

学長・法学博士　岩崎卯一

働きながら学ぶということと、学びながら働くということとは、外観的には同じ事柄の様にも見得られ、また日常生活の態様としても同一であるかも知れぬ。だが主観的な動機と志向とに立ち入って考え直すと、そこに甚だしい相違がみいだされる。前者はその日常的な生活意義を一定の報酬を伴うところの勤労の上に見出し、その時間的な余裕を学問研究に割くといふに止まる。この場合には、たとひ大学の制服を身にまとい、制帽を頭上に冠し、大学生らしい姿を示しても、その志向においては学生ではなくて一個のサラリーマンである。これに反して後者は、学問修得が全一的な目的であり、ただ修学資金を父兄その他の補助に仰ぐことなく、自己の勤労による報酬中から捻出するといふに過ぎぬ。この故に、たといその人が昼間の大部分を勤労先の持場で費し、夜間にだけ大学の教室に、図書館に、研究室に通ふたとしても、その精神において完全に学生であり、俸給生活者ではない。かような場合には、その人は、単に各自の求むる講義ないし演習の時間を夜間に割り宛てられたもののうちに選んだのに他ならぬ。

私は青年時代の大部分を、ニューヨーク市の高台に一大王城のように立ち並んでいるコロンビヤ大学での学生生活のうちに送ったが、この大学での講義と演習とは午前と午後と夜間とに配列され、而も正規学生をしてこれらの何れでも自由に選択させ得る仕組になっているのを見て、修学上の便宜を感じたことがある。各学生は、この所謂「十二時間授業」のうちに配当された各種の講義ないし演習の何れをも、自己の希望に基いて選び得るばかりでなく、選んだ学科の試験合格に依って獲られたポイントの価値は、何れも同一であり而も、そのポイントは、ひとりコロンビア大学で有効であるばかりでなく、他のすべての大学にも通用することに定められてあった。現に会社の重役である中老の一米国二学生のごときは、毎学期（三ケ月半）わずかに午后の社会学教習二ポイントと、晩の社会学講義二ポイントだけを選び、十ケ年間の大学通ひを悠々と続けていた。夜間に割宛てられた講義の担当教授中にも、斯道の権威者と目されていた顔触れが、相当に数多く見いだされるのを常としていた。

関西大学を新制大学に改編したとき、学長としてのわたくしが、第一に苦慮したのは、昼間授業と夜間授業とを完全に同一水準に置き、従来久しく日本人一様の心理にこびりついていた夜間学生軽視の謬った観念を一掃することであった。わか大学のもつ教授陣と設備とを最高能率において動員し、コロンビア大学流の「十二時間授業制」を採用することであった。

この試みは未だその目標に到達してはいないが、その第一歩が既に踏みだされている。新制大学の夜間授業を千里山学舎で試みることには、可成り激しい非難と忠告とを蒙ったが、わたくしは、この点では自己の信念を貫きとおした。

しかしながら、わたくしが真に希願している眼目は、形而上的な授業の仕方だけでなく、形而上的な学生精神の更新である。夜間授業を選んだ学生の一人一人が、「働きながら学ぶ」というサラリーマン的な観念から、「学びながら働く」という真の学生精神に飛躍し、且つこれに徹することである。このことは決して勤労そのものを軽く見ることでもなく、またこれを忌避することでもない。勤労なくして社会生活が維持され難いことは、あまりにも自明である。だが、勤労の余暇に人文科学や社会科学を学ぶことは、青年時代でなくとも、出来ることである。壮年時にでも老年時にでも、学問することは可能である。わたくしが嘗てその地で目撃しつづけたイギリスの勤労階級者の大部分は、終身本を手から放さない読書家である。ただ「学びながら働くこと」だけは、原則として青年時代の特権である。そこにこそ、勤労学徒の誇りがあり、学生生活の特色がある。「勤労学徒」の、そして「二部学生」の特殊性とは、単なる授業時間と学費支弁源泉との事柄だけであり、学生精神そのものには、何らの特殊性もないのみならず、断じてあってはならぬ。青春を讃え、真理を追い、未来の指導者を以て、任ずる大学生の喜びは、関西大学すべての学生に共通であり、また、あらねばならぬ。

主張　学生と学生運動

戦時中の私利と栄達、虚栄と形式主義、封建的な階級制が支配していた日本社会の実情は、学生の理性的批判に堪えるものでなく、又その社会に漲る萎靡沈滞は学生の真摯な努力に依っても遂に救えなかった。而して敗戦により多くの義務を課せられ、戦争の必然的結果たる難問題に囲繞されつゝも依然として古い世代は徒手空拳の有様である。深刻な食糧問題、失業問題、インフレの為生存を脅かされているにも拘ず、適切有効な対策は何等行われず、形式的に民主々義云々を唱え乍ら、実質的にはそれは遅々として進捗しない状態にある。茲に青年学徒が古い世代に期待する事を断念し、自ら日本再建の大任を担うべく志し、活溌な動きを展開するのは尤な事である。戦争前に学生の実践運動を抑圧していた諸法令が撤廃され、選挙権が拡張されて学生に政治的権利が認められ、文化、政治、社会の各領域に於て澎湃たる学生運動展開の運びとなったのである。

然し現在咋々学生界に於て注目されてよい傾向は、一部の学生は終戦と共に文化、社会運動に飛び込み一途に驀進しているのに反し、大部分の学生が一沫の躊躇逡巡を感じているという事実それである。さりとて、此等学生が日本再建に於ける自己の使命の自覚と実践活動への熱意がないと断ずるのは全く誤りであるといはねばならぬ。と云ふのは徒に未経験な分野に属する実践運動への漠然たる不安と戦時中低下を余儀なくされた学力にある。孤疑逡巡しているのではない。只吾々学生は再び暴虎憑河の勇を繰り返したくないというのである。こゝに現代学生の自己反省の鋭さと思慮の深さが伺はれ、その態度は一部の人には充分に評価せられている所以である。

いづれにしても吾国の学生運動は未来に属するという事が出来る。然も日本の再建は学生を含む青年層の活動如何に依存する所極めて大と云える。凡そ学問は生活的実践を通じて体得されるときに始めて現実である。即ち、此の場合にのみ真理は生活を動かし生活を形成する力を持つのである。故に学問は生活を超越するかにみえるが実は生活と結びついている。げに大学は文化の推進力であるといはねばならぬ。

学問は吾々の自覚的契機に外ならず、両者結合の契機を無視して両者の区別のみを力説する時、学問は論理の遊戯に堕し、真理は現実性のない単なるイデオロギーと化するのである。

茲に結論として文化、社会、政治運動に従事することは、それが学生にふさわしい限り、学問を妨げるどころか反って之を促進する学問の本質及び学問と実践との関係に就いての透徹した意義を前提とし、決して猪突、盲信独断、不和雷同的であってはならぬ。ヘーゲルのいったように感激から真理は生れない。学生運動は常に純理的でなければならない。（T）

二部学友会　遂に予算決定！

総額971,770円

十月末日に各部の予算書及事業内容部員数の提出を打切った中央委員会は十一月三日各部代表幹事を混え、予算審議に入り検討を続け各部共要求額を譲らず、長時間を労したが物分れとなる。以来中委会は鋭意予算面の解決のため審議を続け、十、十一日常任委員会の決議により予算対策委員会を設け翌十二日午後一時より九時迄の長時間を費して各部の内容を検討し遂に予対委員会案の作成を見るに至った。十四日十時天大学舎に於て定例中委会を開催冒頭予算審議を掲げて議長に金本副委員長を推し予算内容に入る。なお当日天大自治会より委員出席して活溌な論議が斗わされ三ケ所の修正をみて予算対委会案が可決され中委会案を決定。続いて午后五時より予算総会を催して前記中委会案の説明各部代表幹事の忌憚ない討議が行われた。席上楠本幹事長立って「予算決定を三日間延期され度し且十七日幹事会を開いて意志を決定したい」との発言あり、議長右提案を採決。

十七日学友会委員室に於て各部代表幹事及中央常任委員出席の下に予算審議幹事会を開催し、各部幹事の熱心なる検討が続けられて弁論、応援、社研、政経研、唐手山岳の各部より修正意見が出され幹事会は之を認め中委会の意向を正した。この時川西委員長諸般の説明後、中央委員及三役の名に於て予算の発表を行ひ満場一致で委員長案を賛成可決した。

前案を再び中央委員会に提案し本案を採諾し茲に難航に難航を重ねてきた予算問題は十一月中旬を以て遂に決定を見るに至った。

× ×

予算決定額は次の如し（単位円）

学研部	一四五、七二五
文化部	一四四、一一〇
運動部	一〇一、九三五
新聞部	五九、〇〇〇
応援団	五五、〇〇〇
書記局	二八三、〇〇〇
自治会	四三、〇〇〇
文化祭	一四〇、〇〇〇
計	九七一、七七〇

二部学内雄弁大会

六日午後五時より天大学舎にて開催、和田弁論部部長の開会の辞に続き、弁論部部員の模範弁論を混え、十五名の弁士交々壇上に立ち、若きものの意気と熱を弁論の中に遺憾なく発揮し、その、ほとばし出る、真情の言、雄々しき叫びは、聴衆をして酔わしむるに十分の感が見受けられる。

審査発表結果授賞者は次の通り

一等「私は斯く叫ぶ」田中竜之助
二等「我々の立場」奥村　孝
三等「グット・バイ」山田　敏雄

詳報は次号紙に記す。（T）

堂々演劇賞第一位
—二部が生む学窓座—

一昨年七月発足以来勉学の傍々ひたむきな芸術への情熱を真のアカデミックな学生演劇の中に築き上げんと過去二年間僅か二十名たらずの部員に依って真剣な努力が続けられて来た二部演劇部（学窓座）であった。

昭和二十一年九月毎日会館に於て八木隆一郎作「湖の畔」を第一回公演として上演以来、実に公演十五回の歴史と伝統を創り上げ、昨年一月オール関大演劇祭には「修禅寺物語」を次いで二十二年度文化祭に於て菊地寛作「恋愛病患者」の上演は演劇賞第一位を獲得した。其の後宮津劇場の好意で宮津公演や松山高校戦災復興資金募集の一役を買ったりして多大の成果を収めた。本年六月のオール関大文化祭には二部を代表して内村直也作「秋の記録」を以て之に参加し、よく学窓座—二部此処にありとの意気を示したのである。

今度の二部文化祭では大半は新部員のスタッフ・キャストによる河岸（高橋早之助作）を上演することに決定しており、其の后の計画としては「明春第三回公演を行ふ予定でレパートリーにあっても真のアカデミックな新劇としての又学生演劇としての上演価値あるものを取上げるよう努める次第です」と鈴木演劇部長（専法三）は静かに語った。

尚上演予定としては初恋、堕胎医、雲の生涯、守銭奴、マリウス東京哀詞等が挙げられている。

去る四月より数えても優賞十回を獲得、二位七回、三位七回、四位四回等連戦優秀な成績を収めている卓球部では、部員一同よく団結—十一月の第三回国民体育大会にも堂々と出場して、夜学生にはづかしくない敢斗振りを発揮、よく関大二部の存在を高めた。

卓球部主将紀太敏治君談

夜学生も昼間生に屈してはならぬ運動不足勝ちな吾々は時を利用して宜しく体を練る事だ。卓球部を通して関大二部のために充分活躍したい。

吾が卓球部燦然と光る
国民体育大会へも出場

尚同部の十二月行事予定は三、四、五日全日本硬式卓球選手権大会を横浜で。紀太、堀内出場十二日於大阪。大阪硬式選手権大会、紀太、堀内、坂田、中野、織田、有福計六名出場。十七、八、九日全日本学生東西選抜軍対抗戦全日本学生卓球選手権大会於明治大学　紀太、堀内出場。

ぼんのう

世の中にはまぎらはしい事を判然とさすのを避けたがる人が非常に多い▼そのために大変な苦心を払っている向にくだらん努力の数々を▼ついこの前も社会党の西尾さんの如き党か個人かで揉めていた▼それに似た現象が関大学園に存在するというのである▼自校の帽章が何故そんなにはづかしいのか。又何故そんなにつまらないものに見えるのだろうか。そこの所ははっきり知らないが、あご紐で適切に何だかどこかの帽章と見違えて貰いたそうに隠している学生がある。関大じゃない官大の学生ですよ、と、は全部が全部じゃない▼それに対抗してか知らぬが官立大学の学生があご紐の上へこれ見て下さい、私は官大の学生です、間違って貰っては困りますとは、之もどうかと思う▼どっちもどっち然し両者のその操作に於て反対現象であるのに、世間に訴える願心に於ては全く同一の心理より出づるものである▼煩悩の仕業かな。ボンノウ解して仏教では衆生の身心を悩乱し迷界に撃留せしめる一切の妄念と云ひ、その数が八万四千程あるといふから、此の中の一つに属する煩悩にとらわれているのだろう▼早くこの煩悩の犬を捨てて疎開先から正規の場所にあご紐を置いてやっては、最近世間でいう疎開は続々元の住居に帰っていくというから。

来れ!!研学の集ひ

二部学友会には左の各部が他校に劣らず活溌な動きを見せ、学究の友来りて見よと各部主将及部長は多くの参加を望んでいる。

学研部＝哲研部、国研部、社研部、政経研部、英研部、近文研部、経営研部、文芸部。
文化部＝演劇部、弁論部、吟詠部
軍動部＝唐手部、山岳部、拳斗部、庭球部、卓球部（未設野球部）

中央委員長に就任して

学法三　川西元治

（浅学の身であっても一度中央委員長に就任した限りに於ては、組織の確立に運営の充全なる把握に努力してゆきたい。今若干の意見を述べ御参考に供したい）

一、学友会の必要
——組織の確立と客観的状勢の剋服——

実的要請に応え、吾人は屢次に亘り、会合を開き諸条件を附議し検討したる結果、茲に学友会設立に意見の一致を見たのである。

吾人は夜間学校に学べる「二部」の学生である。自ら勤労し、荒き波風を身に泌みて堪え忍び、生活向上に努力せる学生であるが故にいかに現実社会と理想の社会との一致を見んと欲することが困難であるかを充分体験しているのである。しかし尚、かゝる現実社会に於ては、私立学校の卒業生、就中夜間学徒の出身者は、時に通学時間の関係より雇傭者に阿ねる時に官公立諸大学出身者と競い、不撓不屈の努力を重ね成長し来つのである。

社会人の無智は一接するに差別を以てし、遇するに職階制を以てせるかを開き屢々吾人の憤激を醸さしむるのである。

こゝに学友会組織を樹立し、学問政究の殿堂としての大学を内面的に進展せしめ、飜へって対外的には諸大学と提携し、社会的にはその認識を再確認せしめんと欲したればこそ、ここに学友会の中央委員長に就任したのである。

実に学友会はその使命に於て、その必要性に於て、必然的帰結の結果せる産物なのである。

そこで吾人は諸君に学友会の本質を先づ考察して貰はねばならない。次に学友会の性格を政治的価割判断に基いて、検討して貰はねばならない。前者は事実についての認識であり、後者は目的論見地に於て捉える政策如何の点である。両者の密接な連関により学友会の運営ー政治的なるーを仔細に検討して戴きたいのである。

かくして組織が確立せば、次にかゝる学友会組織を必要ならしめ授業料問題、停電問題、授業の内容問題等の学校経営に答啄せざるを余儀なからしめた（之を激動期に於ける運営となす）客観的状勢を剋服しなくてはならないのである。

故に河合栄治郎教授は、その数ある諸随筆に於て大学の本質を説かれた。左翼諸論客は先生を以てオポチュニストというのであるけれども。今その点は暫らく別として、「大学は須らく学問する処であらねばならない。研究するところー場所ーであらねばならない。

大学に於て政治運動をなし、研究の成果、業績を現実に実現することは厳に之を戒むべきである」となさるゝの論については、吾人を亦之を支持する。而して吾人は「学園とは唯勉学と研究とその成果を発表せる所にして、徒らに斗争し且又ストライキをなすところに非ず。将又営利を目的とする事業をなす所にも非ずと思うのである。」

只遺憾ながら教授存世当時の社会状勢と今日のそれと比較せんか、前記の如く学生にとり学徒にとって本質的諸問題が吾人の死活を制せんとしている。この限りに於て、吾人はその活動を続けているのであり、授業料が年額百円位になり停電問題も解消し、授業が毎日あるようになり、学部と専門部の授業内容が異なるようになればーそして自由に学問が政究出来るならばー吾人は職を辞するに吝でない。吾人はパンのみに生くるに非ざれども又パンなくして生くること能はずー授業料の昂騰により優良なる学徒を失えば、吾人の悲しみ之に過ぐるものはない。国家の為概嘆これ久しうするのである。

二、学友会の目的及びその使命

若し左翼の人にして諒解を賜はらんか。精神的結合ー社会学の教授として、吾人の尊敬する現学長岩崎博士の諸業作に徴すれば、学友会はその社会型に於て共同体的社会であり、しかもかゝる共同社会の本質は、愛。である。而してかゝる結合は全く、精神的結合である。」と。部分社会としての大学それ自体と異り、且又部分社会としての国家、教会、労働組合と異るなどは凡そ述ぶるまでもないことである。

わが学友会はその会削第二条にこの事を規定して曰く、

「本会は会員相互の親睦を図り学内自治を全からしめ、併せて健全なる精神、身体の修養向上に努め以て関西大学建学の趣旨に基ける校風を振興するを以てその目的とする。」と

われ茲に喋々の説明を加うるは、徒らに死児の齢を数うるに以たる。故之を省く。

（概観上述の如き至極論理整然とせざる私見と、その抱負を述べたのであるが、論偶々非礼に及びたるところあらば、平に御容謝を乞ふとして、何卒御支援と御協力下さって、今後の本会の運営に万善の策を御教指賜はるべく、ここに懇請し擱筆する次第である。

校歌

自然の秀麗　人の親和
たぐひなき　此の学園
我等たち　人生の曙に
繁たる理想を仰ぎつゝ
学ぶは一途　純正の
若き心に、たゝえなん
関西大学　関西大学
関西大学　長き歴史

私学は私学の立場で!!

十一月廿三日休日を利用して本紙部長を同伴し、京都府乙訓郡海印寺村大字奥海印寺小字東代というやゝこしい所にある学長宅を訪問した。新京阪長岡天神にて下車種苗で名高いタキイ農事研究所を過ぎた所に一軒だけ田圃の中に点在しているのが教えられたままのお住いと分った。丁度行はれるか」

学長「行はれぬだろう」

記者「学生の出席率について」

大小島教授「最近の学生は出席率はよくなったようで、二部も極めて良好である。概して関西の学生は関東よりも優秀であると思ふ」

記者「共学の成果は」

教授「昨年予科に二名今年十数名も入学したが、トラブルは起さず概して男子学生も勉強する傾向が強くなった。二部生にも全く真剣な態度が窺はれる」

記者「大学院設置の問題は」

学長「教授会、理事会に於て決定されるもので来年度には設置されるだろう。」

記者「各紙に採り上げられた教授署名問題の顛末は」

学長「来るべき時には堂々と旨明するが今はその時期でない」

記者「最後に学生に対する御意見を一つ」

学長「教務に関する事は遠慮なく各部長を通じて申し出るやう。尚親父に対する気持で、学長の悪口を言って貰い度い」

日も西山に没しこゝ海印寺村も停電に煩はされて四方暗く黄昏の月を仰ぎながら午後五時半帰途に着いた。邸内には学長自身の手になる菜園に大根、葉が青々と豊穣の秋を思はせていた。（清原生）

学長宅訪問記

関西学生拳斗界の雄

斗士三十余名の部員を数へる二部拳斗部員は、時間的に不利な条件の下、不断の修練に、ひたすら技術を磨き、その活躍は、目覚ましく、関西学生拳斗会の雄たるの位置を完全に保っている。

（主なる成績の一部左の通り）

▲五月三十日　堺市立運動場関大、関学、大亨、立命の各大学出場、二部より伊達、高尾出場、伊達、KO谷村（篠原拳）

▲六月十日——十五日　東京遠征、全日本学生拳斗大会に出場、一部より伊達、鈴木二名参加。

▲七月十日　北野ガーデン　伊達KO（鎌田大亨）

応援団の活躍

愈々熾烈

千厳団長の下七十五名は一致団結以て団員相互の切磋琢磨、熱、力、愛の精神且剛健の気風養成を綱領として学風振興の推進力たらんと学内に於ける応援指導に寧日なく本学運動部の対外的試合の輝ける戦績の陰にその活動目覚しきものがある事を銘記しなければならない。本年五月より十一月に至るまで実に二十数回に及ぶ対外応援並びに会合を行った。

尚山中副団長は「冬の到来と共に外的活動の時機は過ぎたので明春迄は主として内的な身心練磨に力を注ぐ計画中です」と言葉少く語った。

学友会各部ニュース

〝学の探究〟真理の探究〟

社会科学研究部の動き

社会のあらゆる現象に対して科学的分析を行ひ、理論と実践に於てその解決を見出すことをモットーとせる二部社研は、十月五日発足以来日尚浅きにもかかわらず毎週研究会、討論会を行ひ関西社研連の重要な地位を占めその活動は注目されている二部の研究部としては最高の予算を獲得し、部員も百名を突破し今後更に講師の招聘等も行ひ学生擁護の推進力たらんとしている。

神鍋スキー場で冬期合宿

山岳部大いに張切る

太陽の下で体育に恵まれぬ二部生は休日を利用して活動する外、道はないと山岳部では次の如く予定している。

◇十二月中旬、道場河原百丈岩附近でロッククライミング冬期練習を二泊三日で行ふ。

◇明年一月上旬、神鍋スキー場で三泊四日のスキー術習得錬磨及雪中キャムプ演習をする。

芸術論研究会と近代文学講座

十二月十二日と十九日の両日曜に亘って天大学舎で午后二時より芸術研究会が近代文学研究部主催で行はれるが、之と別に三日間に跨って近代文学講座としてリアリズム研究がある。（詳細は追て同部より発表される筈）

○研究論集原稿募集

（一）、原稿用紙（四百字詰）廿五枚以内

（二）、内容　文学に関する研究全般

（三）、締切　来年一月十日（月）

近代文学研究部

関西大学弁論部の存在

盤石不動の存在として伝統を誇る我が二部弁論部は茲に新聞を通じて足跡の一片を学友諸兄姉に発表し得る機会を得て欣快に思ふところである。

「今や吾が国家が当面せる危機は我々青年に課せられたる危機であり、これと対決してこれを克服して行かねばならぬ当局の命題でもある」我々の眼前に展開せる、政治的、経済的、停滞混沌たる社会相、それらが我々の精神内に入り懐疑となり、ニヒルとなり、健全たる理念をむしばみ、又マンネリズムとなり、シメミズムとなり、我々を安逸なる惰眠に誘ふのである。我々はかゝる内的危機の克服と同時に、又、外的に積極的行動に訴へなければならぬ。

我等が祖国を憂ふる心、同胞を救はんとする真情、社会悪を糺弾する雄々しき叫びこそ、我が関大二部弁論部の使命でもあり、又、存在の意義がある。

昨年七月、傷病者後援資金獲得運動、同年十一月、難波駅前、文化会館にて、文化講演会開催、アカデミックな関大ルネッサンスの花を大阪の一角に咲かせたのである。又本年十月共同募金運動に参加、多大の効果をあげた。

「一国家の繁栄は必ず国民の自由なる意志の表明が政治に反映し、実践された時代である。かゝる意志の表明は正義と真理に立脚せる言論によりてこそ、その効果は最も大である」かのギリシャ、ローマの繁栄時代、憂国の士が大衆を前にして熱叫した。諸兄姉よ、文化国家に資せんとする、ひたむきなる若き情熱を我等が弁論の下に叫合しようではないか。（和田）

来年一月一日より三日間、休日を利用して四国四県、高松、九亀等主要都市に遠拳啓蒙、新憲法普及、文化啓蒙の三つのスローガンで、百二十人二班に分かれて行動の予定。

二部新聞部役員名

去る十一月十九日第一回新聞部総会の結果左の通り本年度役員決定

新聞部長　白井幸雄
天六支局長　柏木節夫
編集部長　清原義郎
論説部長　麻山一策
渉外部長　宇都宮慎也
宣伝部長　井上光雄
経理部長　森田滋郎
庶務部長　貴島昭雄
（以下略）

野声

投稿歓迎　所在明記　紙上匿名可

試験期をひかへて

来年の二月には我々学生の一大関心事たる試験期に入る。こゝでお互いに熟考を要することはその試験日割である。現在同一時間に学科目の重複があるが重複せる科目は当然受験資格を与へふきである。学校側としては身体が二つあるわけでもなく一時間に二科目も受講出来ない従って試験のみ受けると言ふ事は不可能だ。単位を取るのが目的ではなく学問することこそ学生の本分だ、と言ふかも知れない。然し昼の暇な時は一部学生に交って、あるひはお互ひに助合ひ又一方が休講の時は進んで今一方の講義に出て勉強に邁進している二部学生の如何に多いかを考へてほしい。極言すれば一時間も出席しなくとも現行の制度では受験資格は与へられているのである

又九月頃、盛に行はれた時間割変更により、今まで受けていた科目が受けられなくなったりして多数学生が迷惑している事に対しても明かに責任を感ずべきである。一方一部に席を置いて夜受講している者もある。それは最も賢明なる法というべきである。二部設置に際し学校側はあくまで一部と二部との公平を云々した。試験に於ても理屈は抜きにしてあくまで公平なる時間割配当をされる事を望んで已まない。万一今度の試験に於て二部学生に少しでも不互の念を抱かしめたとすれば来年からは二部に席をおく馬鹿者はなくなってしまふであろう。学校当局の早急なる明示を待っ。（法二M生）

編集後記

此度学報発刊に当り多数の原稿を寄せられたことに就いて深く感謝すると共に印刷の関係上紙面がタブロイド版のため一部しか掲載出来なかったことを深くお詫びします。寄せられた原稿は次々に流して発行する予定ですから大方の御諒承を乞ふ。

人生の最初の十年間に於て愛し為したものを、人々は常に愛し又常になすものであろう（ハンスカロッサ）吾吾は吾吾が最初に作り出した新聞を常に愛し常にもり立てゆくよう望みます。（K生）

新聞部原稿募集規定

（一）、研究論文、コント、随筆、其の他原稿用紙四百字詰五枚以内（締切本年末）

（二）、届先（休暇中のみ）学部予科天六の各ボックスおよび芦屋市宮川町四十六番地　白井幸雄宛